

めだかの学校だより

令和8年8月1日

第132号

学舎：周智郡森町

「一宮総合センター」

事務局：静岡県磐田市

家田 529-20

TEL:0539-62-6691

校長訓話

第一三二回 校長 大島 たまよ

「本物」を見抜く力
～伝統とものづくりの重要性について～

AI時代に考える～

目まぐるしく変化をしている現代、特に最近では人工知能（AI）の進歩によって、私たちの暮らしは大きく変わろうとしています。文章を書き、絵を描き、音楽を作り、瞬時に膨大な情報を整理することがAIには可能になりました。便利さと効率性は飛躍的に向上した一方で、今あらためて問われているのは、「本物」とは何かを見抜く力ではないでしょうか。

私も長年取り組んできている葛布製作や民俗調査などの地道な活動から感じているのは、伝統芸術や伝統工芸とは、単なる古人の培ってきた昔の技術だけではないという事です。そこには長い年月をかけて磨き上げられた技術と共に、自然への深い理解と感謝・畏怖の念、地域の歴史（土地の持つ歴史）、

そして作り手の精神が息づいているのを感じます。一つの作品が完成するまでには、失敗と試行錯誤を繰り返して、師から弟子へ受け継がれてきた知恵が積み重ねられています。だからこそその背景を知ること、作品は単なる「物」ではなく、人の営みや文化そのものとして私たちの心に語りかけてくるのだと思います。

AIは優れた作品を模倣し、新しい表現を生み出すことができます。しかし、その作品に込められた人生経験や土地の記憶、作り手の覚悟や祈りまでは再現することが難しい（というより出来ません）。人は均衡のとれた美しさや整った形だけを求めているのではなく、その背後にある物語や精神に感動しているのです。

現代は、情報も商品もあふれている時代です。画面上で見えるだけでは、本物と模倣品の違いは分かっていくなくなっています。だからこそ実際に工房を訪れ、職人の手仕事を自分の目で見て、作品に触れ、作り手の人生観に触れ、その作品を実際に使い続けることが重要になってくるのです。本物は時

間とともに味わいを深め、使う人の暮らしに寄り添いながら価値を育てていくものだと思います。

また「本物」を見抜く力は、美術品や工芸品だけに必要なものではありません。情報の真偽を見極め、人の言葉の重みを感じ取り、何を信じて生きるかを判断する力にも通じてくるのだと思います。AIが多くの答えを提示してくれる時代だからこそ、その答えを鵜呑みにするのではなく、自ら考え、比較し、経験を通して判断する姿勢がこれまで以上に求められて来るでしょう。

伝統芸術やものづくりに触れることは、単に文化を守るためではなく、本物を感じる感性を育み、人間らしい豊かな心を養うためでもあるのではないのでしょうか。AIは便利な道具として活用しながらも、最後に価値を決めるのは人間です。そのためには、受け継がれてきた文化や職人の技に学び、「本物」を見抜く力を未来へと伝えていくことが、経験や知識を年月とともに積んできた私たちに課せられた、これからの時代を生きる大切な役割になってくるのではないのでしょうか。

AI時代とは、人間の価値が失われる時代ではありません。むしろ人間にしかできないことがいつそう鮮明になる時代、人として生きるこの意味を真に問われる時代となると思います。

めだかの学校伝言板

第132回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／大島たまよ

教頭／田村進治

用務員／浅岡道範

給食係／※給食は取り寄せです。

<学舎> 静岡県周智郡森町一宮 3150

「一宮総合センター」

※コロナはまだ収まっていますが、
マスクは自由とします。

開校日／令和8年9月5日（土）正午～

受付／大場敬子・大橋町代・榊原幸雄（後見人）

34期通年テーマ：

『新しい自分を発見って…?!』

今回のテーマ：

《私をかえたひとこと》

<時間割>

●1人3分講義の特別授業

課題「私をかえたひとこと」

●給食は取り寄せです。

PM3:30 開校

■自筆の手紙はいね!

久しぶりにバラ様の生存を確認できて、安堵一時の喜びを戴き誠に恐縮の極みです。

自筆の手紙の文字からはバラ様の心と共に血流、体温まで感じられるから不思議です。面と向かつては言えないことでも、手紙なら伝えることができるのです。

封を開ける時の心のときめき、なんと読み返しても気持ちがあたたまり総合の関係性への親しみと幸福感に包まれた至福の時間が流れるのです。デジタル時代のスマホでは絶対に味わうことの出来ない、心豊かなアナログ手紙文化と前時代的な筆器具の万年筆は残したいものです。

昔々高校時代の電車通学で、毎日同じ時間に同じ車両に乗って来た女子学生にそと手渡した初めての手紙。丁度その頃ヒットした青春の「青い山脈」。映画は「変しい変しい」の誤字からのラブレターから始まって居ました。1通の手紙は新しい息吹きと希望を与えてくれるのです。落ち込んで居ても途方に暮れても頂戴する1通の手紙がエネルギーと成って支えてくれた思い出を大切にしたいものです。横須賀倶楽部の鈴木武史から彼が旅立つ1週間前に私に届いた短い手紙は私の宝物となりました。

「心にひびく日本語の手紙」と言う本があります。著名人の書簡集ですが、その中で紹介されて居る1通は、米国に滞在中の息子である野口英世に宛てた母親であるシカさんの手紙が紹介されておりましたので...。「おまゝのしせ(出世)には、みなたまげました」に始まり、「はやくきてくたされ」と息子

(英世)の1日も早い帰国を懇願する素朴な母の手紙には不思議なパワー(引力)が秘められています。母からの手紙のついでに、もう1つの面白い手紙を紹介すると、手紙で伝えるにくい要件にラブレターの他に借金の依頼があります。

かの石川啄木が夏目漱石にあてた貸金依頼手紙です。啄木からは「筆につくせぬ前置きは以心伝心にて、御諒察被下度候」に始まって「現在懷中に十二円と若干なり、誠に済まぬけれども五百文又々御願ひ申上候」の誠の手紙が漱石に届きその返信は「御手紙拝見候折角だけでも、今貸して上げる金は無し、家賃など構やしないから放って置き給え」の返事、それから2、3日遅れて漱石からの追伸が届いた。その文面は「紙入れを見たら一円あった。これを届けるから酒でも呑んで家主を退治したまえ」と封筒には一円札が...

実際にこれらの手紙が残されて居る様です。明治の文豪達にはブライバシーは無かったです。アナログ時代の佳き伝統です。

...まだまだ以下は続きますが、紙面の都合で割愛させて頂きました。ごめんなさい。花井孝メダカからの手紙でした。

■全国まちづくり交流会 in 新庄村

全国まちづくり交流会 in 新庄村は、10月24日(土)13時受付から25日15時解散まで、岡山県真庭郡新庄村で開催されます。24日(土)13時半から開催。座学には参加団体、村内団体3団体の発表があり、15時半からは、木村邸裏側で、バーベキューの交流会があります。25日(日)7時からお寺での座禅が、8時からの朝食の後、9時から桜通り散策、10時から村内行事や秋の大宴会などに参加、15時解散。会費2万円(宿・タ

食の交流会・朝食・資料代含む)
問合せ申込は、FAX:0867-567751、一般社団法人むらづくり新庄会へ。

■第3回浜名湖フォークフェスティバル

明日に向かって走る僕たちの歌をこの場所で第3回浜名湖フォークフェスティバルが開催される。日程は、9月27日(日)10時~16時10分、浜名湖ガーデンパーク野外ステージ。出演 大西弘紀ウイズキップ・パーズ・テージ。出演 ニュラエモンズ・名倉バンドなど20バンドが出演する。入場無料。お問合わせは、090-5108-1310、中村明男メダカ。

■第21回遠江国分寺まつり

第21回遠江国分寺まつりが、奈良東大寺別当橋村公英師を迎えて、11月7日(土)午前9時~午後3時半まで、開催される。国司参拝行列は、午前10時磐田駅北口広場を出発して、天平栄市(軽トラ市)、府八幡宮→国指定特別史跡の遠江国分寺史跡公園まで。

会場では、各ステージパフォーマンス・野点茶会・万葉相聞歌吟詠・天平衣装体験・祝い餅まきなどがあり、華やかな舞台など堪能することが出来ます。

また、11月6日(金)午後3時から、グリーニティイワタ(磐田市岩井)で東大寺第225世別当橋村公英師の特別講演会「遠江の国の華々七重の塔が咲いた空」がある。入場無料。問い合わせ先、遠江国分寺まつり実行委員会、090-9021-1327、今井。

『人ひと・ヒト...だより』

●群馬県南牧村の松林建メダカ。本年度から3年間、群馬県青少年育成員に委嘱された。今年度は担当する役職が一気に増えて

自分でも把握できなくなっているが、この役は村長ではなく、群馬県から委嘱された、と。また4月に今住んでいる古民家を購入し、ついに念願のマイホームを手に入れました。18歳で大学進学のため上京して以来、早や40年。ずっと借家暮らしでしたが、還暦を前によくやく一人前になった気がします。人生これからですね、だって。マイホーム手に入られてよかったですね。

●飯田市南信濃の玉置洋一メダカ。今年10月4日(日)かぐらの湯リニールアル1周年事業イベントを考えています。出店等に参加できる方、募集しています。どなたでも結構です。ぜひ遠州の皆様、お待ちしております。信州遠山郷へお出かけ下さい、だって。いや、出店したいね。温泉へ浸かりながら...。何かないかなア(笑)。

●浜松市の村木謙式メダカ。楽しくたべろ?そうだと楽しくおしゃべり!って事、これを通していつまでも、いくつになっても学べる、マナビヤ、であって欲しい。3人集まっておしゃべりし、6人集まってさらに楽しく、12人集まってもっと楽しく、年を忘れ語り合う。だれもが同じメダカが泳ぐように、同じ方向を向いて、そしてだれがリーダーになれるフランクな集まりで居てほしい、そしていつかは先生に、いつかは生徒に...。だって。ボケ防止に仕事を思いいついたらいつしかあてにされ、引けに引けなくなってしまう!じいやです。お爺の調理補助員です、とも。趣味は電気工事、アンプの製作。131回の久しぶりのあいさつでは、電気のコードや差し込みなど、役に立ったヨ(笑)。

●磐田市の小野里美メダカ。これまでと同じように毎回違った先生のお話を聴きたいです。「私は特別なことは何もしてこなかった」という人にも、その方ならではの人生思いがあつて味わい深いものですよね。世間的には高齢者の仲間入りをした私ですが、

「めだかの学校」ではまだまだ若輩者、最近入学した若い世代の方とも交流していきたいです。だって。ほんとだね。最近入学した若い人たちの出席が少ないのは淋しいね。玉木良汰さん、高塚静子さん、川岸和花子さん、山本裕三さん、待ってるヨ。出てきて………。(笑)

●秋田県鹿角市の奈良努メダカ。今、NPO法人関善賑わい屋敷の理事長として、旧関善酒店の屋敷蔵の保存活用を展開しておりますが、発足から24年が経過して建造物の維持・管理の難しさを日々痛感しております。次の世代へのバトンをいかに渡していくかが、私に課せられた人生の宿題として頑張っています。演劇は、第34回の定期公演「注文の少ない料理店」が6月27日・28日に幕が上がります。注文は待つことだけ、だって。また、いつまでも、いつまでも続けて欲しいものです。いつの日か登校できる日を楽しみに生きております、とも。嬉しいですね。奈良さんと再会できる日まで私も頑張ります(笑)。

●磐田市の村田徳治メダカ。人生100年というけど、私たちの生きてきた時代の日本は戦後ですがたいへん希望に満ちたよい時代だったように感じます。5年先、15年先、25年先の社会を想像することはとても難しいですね。私が生まれた時の100年前といえはまだ幕末。100年ってすくなく長く……短い?。だって。そうだね、1853年(嘉禄6年)アメリカのペリー提督率いる艦隊が浦賀に来航して開港を迫った時にあたるんだってさ。調べた(笑)。

●磐田市の宮沢博行メダカ。住居も東京に移して、東京を拠点に活動中。国会内で記者会見し、政治団体『創生党』を立ち上げた。と(6月2日の静岡新聞)。来春の統一地方選には約10人の候補者を擁立する考え。自身の国政選挙の立候補は調整中としながら

も「私が国政に挑戦するのは責務だ」ともいやゝ動行が知れて良かった。仲間が頑張ってる姿っていいね。

●浜松市の水村春江メダカ。現在までの携わって頂いた年月、気が遠くなりそうです。最近自分の能力?と気力の低下、体力の衰え!!「漢字で書きたくない!!」そんな泣き言をサラリとかわして頑張ってくださいませ、あまり無理なさらないでね、だって。いやゝ気をつかってくれてありがとう。めだかの学校があればこそ元気でいられるのかも。なんせ「バラさんから、めだかの学校とつたら何にも残らない」と言われてるし。(笑)

●飯田市の河原俊丈メダカ。当方、2月半ば過ぎから日刊紙の方のデスクも務めることになり、日曜以外は缶詰状態の日々を過ごしています。あと数年はこの状態が続くと思われ、めだかの学校への完全に断たれてしまいました。郵送の経費、それを送る労力などでこれ以上迷惑をおかけするのは大変心苦しいので「休学」の形をとられたらと思います。運よく定年退職出来たら、その時は復学できたらと思います。「めだかの学校だより」は、皆様の動きがよく分かり、読み続けたい気持ちがありますが、生徒向けの通信ですのであきらめます。遠山郷にお越しになる時にはお声がけいただけると幸いです。だって。日刊紙のデスクの多忙さ分かります。河原さんの退職、復学まで頑張るね。90歳過ぎてるかなア。

●掛川市の山本裕三メダカ。第131回めだかの学校の開催を、心よりお慶び申し上げます。人生百年時代と言われる今日において、年齢に関わらず学び続けること、そして地域の中で人と人とのつながりを育んでいくことは、大変意義深いことを感じております。めだかの学校が、多くの方々の交流の場となり、新たな学びや出会いを通じて地域の絆を深める機会となりますことを心より

願っています。みなさまのますますのご健勝と、本活動のさらなる「発展」をお祈り申し上げます。衆議院議員山本裕三。開校の祝辞メッセージをありがとうございます。議員活動で多忙だと思いつけど、たまにはめだかの学校にも顔出してね。(笑)

●森町の川岸和花子メダカ。いつもご案内ありがとうございます。なかなか参加できず申し訳ありません。様々な方が講師にいられて、また「めだかの学校だより」を拝見しても遠くの方など色々な方がかわっておられます。いいなと感じています。まだ未熟者ですがこれからもよろしく願います。

●飯田市の長谷部三弘さんが、去る4月20日になくなりました。享年93歳。娘さんから連絡がありました。娘さんの話だと、「めだかの便り」が届くと、隅々まで読んでいたとのこと。また長谷部さん発行元の「風土舎通信」には、「めだかの学校」が何度も掲載されていきました。長谷部さんとの出会いは、平成9年2月14日・15日に、焼津市で開催された第6回全国各地づくり団体研修交流会で、10ある分科会で「めだかの学校特別教室」を開校。その授業で会場から先生を募集したところ、真つ先に手をあげて先生をやってくださった時からのつきあいです。第27期・第105回めだかの学校ではパネラーを。お礼のマスクメロンを持った時の笑顔が忘れられません。「冥福をお祈りします」。

●三島市の野村諒子メダカ。皆さんとお会することや、お便りを読ませていただくことは私にとっても楽しみではあるのですが、毎月第1土曜日に開いている会合がありまして、その司会、進行もやっていますので参加することができません。ですので今期をもつて退会させていただきます。めだかの学校という活動を知ったことは、私にとつて大変元気をいただきました。ありがとうございます。これから私も三島で私にできる範囲のことではありますが、何か楽しくで

きることを探してみたいと思います。溝口さんのようにはいきませんが、新しい出会いにも挑戦していきたいと思えます。お仲間の皆さんのご健勝とご活躍が続きますことを願っております。だって。また切手代の一部にしてくださいと、一万円を寄付してくださいました。ありがとうございます。野村さんのこと、新しい出会いがいっぱいできるでしょうね。淋しいですが、どうぞ、お元気で。35周年大同窓会には来てね!!

〔計報〕

●飯田市の長谷部三弘さんが、去る4月20日になくなりました。享年93歳。娘さんから連絡がありました。娘さんの話だと、「めだかの便り」が届くと、隅々まで読んでいたとのこと。また長谷部さん発行元の「風土舎通信」には、「めだかの学校」が何度も掲載されていきました。長谷部さんとの出会いは、平成9年2月14日・15日に、焼津市で開催された第6回全国各地づくり団体研修交流会で、10ある分科会で「めだかの学校特別教室」を開校。その授業で会場から先生を募集したところ、真つ先に手をあげて先生をやってくださった時からのつきあいです。第27期・第105回めだかの学校ではパネラーを。お礼のマスクメロンを持った時の笑顔が忘れられません。「冥福をお祈りします」。

× × × × × × ×

紙面の都合で多くの原稿を載せることができませんでしたが、ごめんなさい。でも時々ハガキかLINE、FAXでお便りください。お待ちしています。

《お知らせ》

めだか春秋は今回もお休みします。

【訂正とお詫び】

第131号めだかの学校便りの人・ひと・ひとだよりの中で、浜松市の大谷洋平メダカとなつていますが、正しくは大谷洋介メダカです。謹んでおわび申し上げると共に訂正させていただきます。

■事務局だより

今年の夏もほんとに暑いですね。みなさんはどんな消暑法をとっているでしょうか。

我が家では窓を開けて風を通し、扇風機をまわして、時にはクーラーを入れて、そんな感じです。昨年は軽い熱中症にかかつてしまいました。(笑)。

さて、第131回めだかの学校は、令和8年6月6日の土曜日。校長松本芳廣、教頭小野里美、用務員鈴木計芳。松本校長、用事で1時半に登校とのこと、その間校長代理はバラメタが務める。新入生紹介では新入生がいらないので、久しぶりに登校の村木謙式メダカがごあいさつ。いまはお爺の調理補助員で、趣味は電気工事と。ちよと講義のように、電気器具の取扱いの注意事項などを話してくれた。良かったE(笑)。

12時20分から給食の時間、今回も古澤屋さんのお弁当、美味しかったね。給食のあとは全員で写真撮影。横山忠志さんが休みで、村松達雄メダカが撮ってくれた。

1時20分から事務局からのお知らせでは飯田市の長谷部三弘さんが亡くなられたこと、来年が35周年になり、大同窓会をやることなど話す。1時30分から校長訓話。松本校長、この時間には登校していたので間に合う。

2013年、第79回



の時の校長訓話のコピーと、今回の棚田を見直す資料を配布して、棚田の於かっている現情を話しながら、11月14日(土)・15日(日)浜松市で全国棚田サミットがある、などを語る。

1時40分、1時間目、国語「私の人生あれこれ」山中幸子先生。平成22年の67回の校長や建学の精神、両親の介護11年、今年ご主人との別れ、農家の嫁をしながら有線放送のアナウンサー、ハーブガーデンのこと、花博の前の年に、オランダに研修旅行をしたことなどを語る。2時間目、社会「うらばなしろいろ」小山展弘先生。歴史大好き先生、「遠州を代表する武将今川了俊」を、詳細な資料を配布して語る。最初に飛鳥時代の豪族蘇我馬子の長男蘇我尊徳から、南北朝期の遠州府中(見付)を基盤として遠州の守護として遠州の歴史に大きくは影響を与えた今川了俊。九州探題として九州を平定し、南北朝の統一と室町幕府に貢献した人物。墓は袋井市の海蔵寺にある。「十分に大河ドラマの主人公になり得る人物」と、静大名菅教授の小和田哲男先生。…なのに、対象にあがって来ず。地元で大いに盛り上げて宣伝しないと、NHKとしては取り上げづらいとか。資料を拝見すると、まさに人物像が見えてくる。山中先生の10分もらって40分。いや、難しい。(笑)。

2時40分、私語飲食全て禁止の次回3



役発表。校長大島たまよ、教頭田村進治、用務員浅岡道範。磐田トリオ。どんな特別授業に…期待すること大。

最後はいつものように「今日の日はさようなら」を歌いつつ、握手して再会を!

第132回めだかの学校職員会議を、7月11日(土)10時から学舎で開く。大島たまよ校長は用事で早退。浅岡道範用務員は地元の祭りで欠席。松本芳廣メダカは講座があり欠席。出席者は田村進治教頭・石野省三・中村明男・榊原淑友・埋田千聡・鈴木真弓・榊原幸雄の8名。第34期の通年テーマと今回のテーマ、授業などを話し合う。いつものように雑談しては戻つての繰返し。決まる時は決まるもので34期の通年テーマは『新しい自分を発見して…?』に。受けて今回のテーマは「私を変えたあの一言」に。一人3分の授業は、人生の中で、何かの言葉が自分をかえたことがあるだろうと、「自分を変えたあのひとこと」を語ってもらおうと決める。私も若い頃あつたなあ〜とバラメダカ(笑)。そのあと服部守孝メダカから依頼があつた「めだかの名札や名札入れ・名札かけ道具入れなどの工賃5万円を払って欲しい」とのこと話し合う。いろいろな意見が出たが、支払うことに。数

回分のPTA会費不足分と33回の入校金10000円の90000円引いて、9月・12月・3月・6月に分けて支払う事に決まる。服部メダカ色々やつてくれたしね。ありがと。



■第34期の申込み受付てます

第34期は令和8年9月1日から令和9年8

月31日までです。6月6日の第131回開校日より受け付けています。現在30名が済ませています。毎年度手続きが必要で。手続きを怠ると、自主退学扱いとなり、名簿から外れます。気を付けてください。申込書と資料を送ります。若い人も入るといいですね。

■今回も遅れました、ごめんなさい

いつも原稿のメール打ちの石野省三メダカ・大島たまよメダカ・村田徳治メダカ・中村明男メダカ・水島加寿代メダカ・今回オコナー絵美(バラメダカの孫)。写真は村松達雄メダカ、まとめてくださる間瀬亮太メダカ、発送なお手伝い榊原明美さん、ありがとう。感謝!

■めだかの学校だよりの原稿を!

次回の発行は、令和8年11月1日予定。締め切りは10月15日です。なんでも結構です。みなさんの日頃の活動をお手紙・FAX・LINE・FBで。メールの方は、mavun.f100@gmail.com 間瀬亮太090・5009・0686です。(アドレスが変わりました。昔のアドレスは使用不可。)

■めだかの学校の事務局

〒438-0105静岡県磐田市家田529番地20 榊原幸雄方 TEL 0539・62・6691(FAX同じ)
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話 0538・89・7730 開校日の午前11時以降のみ使用可。
携帯 080・1612・9130

